



妊婦さんの歯科治療



「妊娠すると歯が悪くなる」とよく言われるけど、それはなぜ？

妊婦さんのお口がむし歯になりやすいというのは本当のことです。ただし、その原因はよく言われる「カルシウムを赤ちゃんに取られてしまうから」ではありません。妊婦さんのからだに起きる変化が大きく関わっているのです！

1. つわり

- 歯ブラシを口に入れるとオエッとなりやすく歯みがきが難しくなる。
- 歯みがき剤の味が苦手になる。
- お口に胃液が逆流し、強い酸に触れた歯が溶けてしまう。

2. 食の好みの変化



- 甘い物が好きになるとむし菌の大好物、「砂糖」をたくさん摂るようになる。
- 酸っぱい物が好きになると、強い酸が歯に触れる機会が増え、歯の表面が溶けやすくなる。

3. 唾液の減少

- 妊娠によるからだの変化に伴って分泌量が減るため、唾液の粘り気が増し、お口のなかで洗い流されにくくなる。
- 唾液が減ると、むし歯になりかかった歯を修復してくれる唾液の再石灰化作用が弱まる。

妊婦さんもちろん治療を受けられます！

(妊娠中の歯科治療。受けられる時期と注意点は？)

・妊娠初期（0～15週）

赤ちゃんの重要な器官が作られる大切な時期。流産の危険性も考慮して、痛みや炎症をひとまず止めるための応急処置にとどめ、本格的な治療は安定期か産後に行いましょう。

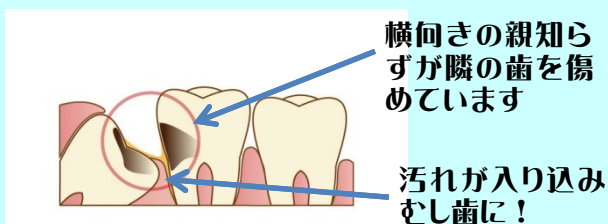
・妊娠中期（16～27週）

胎盤が完成する安定期に入ります。外科処置を含む一般的な歯科治療を受けることができます。激しい急性親知らずの抜歯は、必ず産科の主治医の許可を得て行います。

・妊娠後期（28～39週）

仰向けで診療を受けると大きくなった子宮が大静脈を圧迫され低血圧症をおこしやすくなります。歯科受診の際はチェアの背を少し立ててもらい、短時間の応急処置にとどめましょう。

意外と多い！親知らずのトラブル



『親知らずの抜歯を先延ばししている』というかた、多いのでは？歯ぐきが腫れやすく、むし歯も進行しやすい妊娠中は、急に親知らずが悪化するかたが多いのです。『将来赤ちゃんが欲しいな』と思ったら、親知らずは抜いておきましょう！

歯科受診で気をつけることは？

★治療の相談はお早めに

体調に合わせて治療が受けられるように治療計画について相談しましょう！

★妊娠中だと教えてください

妊婦さんの治療では、使用する薬剤を妊娠期に合わせて配慮させていただいています。

★産科の主治医にも相談を

妊娠高血圧症や妊娠糖尿病などにかかっていたり外科など大きな治療が必要な場合は歯科と産科が連携して治療をすすめます！